

春風秋霜

9月号

平成28年9月1日

島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 『しまだガンバ』笹間キャンプに参加して

社会教育課では、『しまだガンバ』という小学生用のプログラムをもっています。7月には焼津青少年の家でボート漕ぎ体験を行い、8月5日（金）～7日（日）の3日間、笹間でキャンプを行いました。8月5日の川遊びを見学すると、子供たちは急流を利用して泳いだり、岩の上から飛び込んだりと川遊びを楽しんでいました。

子供たちは、自分の遊びを十分に堪能すると、遊びに工夫を加え始めました。岩から飛び込むにも、他の子供が飛び込まない所によじ登り飛び込もうとするのです。足場がない場所を登ろうとするので、何度も滑り落ちていましたが、いろいろ工夫してよじ登ると、思い切って飛び込みます。これを繰り返し楽しんでいました。

子供たちは遊びの天才です。何もなくても楽しむ方法を見つけます。楽しむためには、努力も工夫もします。これこそ、生きる力だと思います。遊びを与えるだけでなく、子供自らが創る遊びも大切にしたいと思います。



2 平和祈念式典に参加して

8月15日（月）におおりで平和祈念式典が行われ、旧金谷町出身の美帆・シボさんの講演会が行われました。彼女はフランス在住ですが、平和活動に力を注ぎ、広島市の平和大使やフランス平和首長会議顧問などを務める傍ら、世界各地で核兵器の悲惨さや平和の尊さを訴えています。

講演の中で、美帆・シボさんは、フランスの子供の中には、「戦争の最終手段として、核兵器を使用する。」という意識があることに驚いたとおっしゃっていました。その驚きが、今の活動に結び付いたということでした。

島田市にも原爆の模擬爆弾が落とされたことは、多くの子供たちが知っています。社会の学習で学ぶだけではなく、朗読劇を見て理解した子供も多いと思います。戦争の悲惨さを子供たちにしっかり伝えることは、教師をはじめとした大人の責任だと思います。春風秋霜7月号でも紹介したので、平和祈念式典への教師や中学生の参加がもう少し増えて欲しかったと思います。

3 氷見市と島田市のスポーツ少年団交流について

8月19日（金）～21日（日）まで、氷見市からスポーツ少年団の団員が島田市を訪問し、島田市の少年団の団員と交流を行いました。スポーツ交流だけでなく、機関車トーマスに乗ったり、家山川で川遊びをしたり、ヤマメのつかみ取りをしたりと、様々な体験をしました。

静岡空港で行われたお別れ会で、氷見市の子供たちの一番の思い出は、機関車トーマスの乗車を押さえ、家山川での川遊びでした。氷見市の子供たちは、海水浴など海での体験は豊富でも、川遊びの体験はないそうです。

また、大井川の広さには、子供だけでなく大人も感動していました。島田市に住んでいると当たり前になっていることも、初めての人には驚きになるのです。島田市民は、島田市の価値をもっと自覚しなくてはならないと思います。子供たちが島田市の価値を意識するためには、

先ず、大人である教師が価値に気付き、その価値を子供に伝えなければならないと思います。

4 事故防止のために

8月15日（月）に自転車に乗った市内中学生が、大雨により冠水した道路から水路に落ちるという事故が起きました。自力で水路から出ることができず、消防団の助けを借りたそうです。集中豪雨による道路の冠水は、河川の氾濫だけでなく、道路のくぼみや排水の悪い所でも発生します。豪雨によるマンホールの浮きあがりも忘れてはなりません。冠水などの危険性は、道路と側溝の境が見えなくなるだけでなく、自転車がスムーズに運転できないということもあります。

今回の場所は、これまでも冠水したことがある場所だそうです。このような情報を学校が得ていたならば、事故の未然防止が可能だったかもしれません。子供たちからの情報を吸い上げ、共有する仕組みが必要だと思います。また、地域から情報を得ることも大切だと思います。子供や家庭には、小さな事故でも学校に報告するよう、徹底することも大切だと思います。自然災害に備え、早急な対応をお願いします。

5 金谷医王子薬師堂の「大工のお仕事現場見学会」に参加して

8月25日（木）に行われた小学生親子体験に参加しました。宮大工の仕事を理解するために、台カンナ（一般的なカンナ）や槍カンナで木材を削る体験等も用意されていました。子供だけでなく、同行した保護者もこれらの体験を楽しんでいました。

千年の釘も展示されていましたが、宮大工に受け継がれている複雑な材木の継手（接合の仕方）には、感動しました。また、古い材木と新しい材木を組み合わせる必要がある修復作業では、新しい材料の収縮を見越して、大き目の材料を用意するという話などは、日本の伝統技術の素晴らしさを感じました。もっと多くの親子に宮大工の素晴らしさを体感してほしいと思います。

肘かけ椅子

高橋 淳 学校給食課長

「豊かな人生のために」

学校給食の業務は安全・安心な給食の提供はもとより、日々の調理員等の怪我や配送時の事故防止、給食費の徴収、賄財の地元産利用と地元購買の促進、施設の維持管理、アレルギー食対応など、幅広い業務である。一般事務職に加え調理員、学校栄養教諭、民間委託による配送員など多職種の職員がいるが、日々、子供たちの笑顔を想い浮かべながら、緊張感の中にも楽しく勤務している。

さて、私は50歳代の半ばを過ぎたが、50歳を迎える前にふと考えたことがあった。自分の子供達は、小学生から高校生くらいまで、サッカーのスポーツ少年団や部活動に加入していたので、毎週のように大会や遠征に時間を費やしていた。子供達の活躍する姿に一喜一憂し、親同士も親睦を図り、有意義で楽しい時間であった。

子供たちが一人前になり自由な時間が増えていくにしたがい、自分自身には大した趣味がないことに不安を抱いた。

そのため、50歳を前後にギターや、リターンライダーを目指し大型バイク免許の取得、そして自分には少し背伸びであるが”ナナハン”も購入した。パン焼きや、家庭菜園などにもチャレンジし、徐々にではあるが、趣味らしきものを広げているところである。

先日お亡くなりになった永六輔さんの「大往生」に、「生きてきて良かったと死ぬときに思える人生」、そんな理想を目指し、これからも公私共に悔いのないよう、過ごしていきたいと思うこの頃である。